

私のグラン・ブルー

中 本 和 洋

私は、学生時代に初めてボンベを背負って伊豆大島の海に潜って以来、40年以上に渡ってスキューバダイビングを楽しんでいる。昭和40年代のダイビングは、どこでもエアの入ったボンベが手に入るわけなく、自分のボンベをかついで海に行っていたので、ダイビング時間もダイビング回数も、今日と比較にならない程少なかった。今日では、浮力調整のできるBC（ジャケット）や潜水時間や水深等の管理ができるコンピューターも開発されており、また世界中のダイビングスポットでボンベや潜水器材がレンタルされており、簡単にダイビングが楽しめるようになっている。私は、当初、日本国内で潜っていたが、ここ20数年来、海外を中心にダイビングを楽しんでいる。今日では、ボンベ等を借りるには、ライセンスが必要であり、私は、マスター・スキューバダイバーの資格を持っている。

レジャーとしてのダイビングの主たる目的は、魚やサンゴ等海の生き物との出会いである。ダイバーの中には、水中銃を持って魚を突き、獲物を持ち帰る者もいる。海外のダイビングスポットでは、銃の持ち込みは禁止されているが、屋久島や石垣島等一部の国内スポットでは、黙認されている場所もある。水中銃を持ち込むグループと一緒にダイビングに出掛けるときは、獲物のハタや伊勢エビ等がホテルの夕食に並ぶこともあり、食事は楽しみである。反面、サメが銃で突いた魚を横取りに来ることもあり、落ち着いてダイビングを楽しめないのが難点である。私は、学生時代は水中銃を持って魚を追いかけたこともあったが、魚獲りに夢中になり、エア切れになって九死に一生を得た体験をしてから、以後一切、銃は持たないことにしている。

また、ダイバーの中には、小型カメラから大型カメラまで水中に持ち込んで、ダイビング中、終始、撮影をしている者もいる。このようなダイバーと潜ったときは、後でたくさんの写真を頂ける。最近では、CD-ROMにして送ってくれる人もいる。後で、写真やCDを見るといろいろ思い出して楽しい。私は、自由に潜ってダイビングを気楽に楽しみたいのでカメラ等面倒なことは一切やらない。

私は、ダイビングでは大型の魚と出会うことを楽しみにしている。最もスリリングな出会いは、何ととってもサメである。一口にサメ

と言っても比較的おとなしいサメとアグレッシブなサメといろいろある。いつでも潜れば、すぐにサメに出会えるのは、パラオ島（ Guam 島から真南の北緯5度に位置している）のブルーコーナーというポイントである。ここは、世界のダイバーが認めるあこがれのポイントであり、サメの他にマンタ、バラクーダ、銀ガメアジ、磯マグロにナポレオンフィッシュ等、大型の魚からダイバーが最も好む魚まで多数見ることができる。私は、20数年来、数十回、ブルーコーナーで潜ったが、このサメがダイバーを襲ったということを知ったことがない。多分、このサメは生まれた時からダイバーと出会っており、ダイバーを食べるには大きすぎるし、異様な形をしてエアをブクブクはいていて、ダイバーに対して食欲がわからないのかも知れない。しかし、タヒチのボラボラ島のサメは獰猛である。ダイバーはダイビング中に血液の中にとけ込んだ空気を徐々にぬくため水深6メートル位の位置で安全停止を3分間位行う。ボラボラ島では何十匹ものサメが安全停止中のダイバーの廻りを取り囲み、スキあらばおそうという感じでクルクルと廻る。このサメは油断できない。

マンタを見ようと思うと、海外ではハワイ島の夜間ダイビングが有名であるが、国内では石垣島のマンタスクランブルというスポットが有名である。ここでは、毎日数匹のマンタが遠方からやって来て、体についている虫等を小魚につついてきれいにしてもらっているのである。その間、マンタは、海中の小高い丘の廻りをゆっくりと泳ぐので、ダイバーは十数メートルの海中でたっぷりとマンタを鑑賞できる。

バラクーダ（鬼カマス）の大群に出会えるのは、シバダン（ボルネオ島マレーシア領）である。バラクーダのトルネード（大竜巻）は壮観である。ここでは銀ガメアジの大群もいて、バラクーダのトルネードと銀ガメアジの大群が同時に見られる世界でも数少ないスポットである。他にも、クエを餌付けし、小熊のように太った何十匹ものクエと遊べるリザートアイランド（オーストラリア、グレートバリアリーフ）もおもしろい。

この他、ここ20数年間で Guam、サイパン、ハワイ、バハマ（西インド諸島）、ピピ島（タイ）、バリ島、モヨ島（インドネシア、小スンダ列島）、モルジブ（インド洋）、セブ島（フィリピン）、ニューカレドニアのイルデパン島、フィジーのタベウニ島、タヒチのランギロア島等で潜った。これまで一緒に潜ったダイバー仲間の中には

既に亡くなった人もあり、いろいろと思い出はつきない。今年はずいぶん久しぶりに青い空、コバルトブルーの海、そして水中の魚達との出会いに出掛けようと思う。